

平成 27 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 慈光明徳会

## 平成27年度 社会福祉法人 慈光明徳会 事業報告

### 総括

法人 ①かねてより法人事業の要として視野に入れていた事業展開を「一般社団法人 東京保育協会」から「小規模保育事業所」3園の事業譲渡と言う形で果たすことができ、首都圏における事業展開へのスタートラインに立てたことが1番大きな成果であった。28年度以降さらに継続して事業拡大を図る基盤として期待できる。

上記展開の為に、財務・経営全般のコンサルタントの力が必要になってくるだろう。

②「保育所」から「幼保連携型認定こども園」への移行がスムーズに行われた。これは町行政の理解あつてのことと感謝している。子どもの未来を見据えた「科学的な幼児教育」を展開できる環境が整ったことは法人・法人職員の確固たる「人間教育の土台作り」という方針への大きな自信と誇りへとつながった。

### 保育園

慈光メソッド完成を目指していたが、完成ではなく、日々進化していくものとして捉え直し、子供たちの状況・職員育成の状況を鑑み進めてきた。アナログ・デジタル両方向での学習スタイルを行ってきた。子供たちのスケジュールと職員配置の問題のクリアが課題である。読み書き計算数量と言う認知活動に置いては、特段の成果が見て取れたということはないが「挨拶」「返事」「姿勢」のという躰の徹底に関しては、職員はもちろん保護者も同じ方向を向き「挨拶」に関しては、多数の訪問者からお褒めの言葉をいただくまでになった。

### 放課後児童健全育成事業

受診に至る事故が数件発生した年度であった。怪我に対する指導員の認識の甘さもあり、指導員育成・研修の必要性を痛感しながらも手がまわらず、即報告の徹底を促してきた。放課後児童の安心・安全を第1義とする場としての認識を深めていくことが必須である。

詳細については、「平成27年度慈光学童クラブ事業報告書」に記載。

### 学習支援事業

「自学自習スタイル」の教材活用により、比較的落ち着いた環境で学習ができるようになり、全国各地より見学者が訪問するまでになった。詳細については、「平成27年度学習支援事業(LSJ)報告書」に記載。

### 慈光第一・第二保育園 重点事項より

#### 園児の最善の利益の追求・保障

#### 《慈光メソッドに関すること》

総括に記した通りである。他に

「音楽(けん盤ハーモニカ)」に関しては、年長児以外、けん盤ハーモニカの鍵盤に階名を付けない方針で行ったせいか、昨年度までのようにスムーズに進まず四苦八苦した年度であった。年長児に関しては階名付きけん盤であるため、何とか行事仕様に仕上がったが、主任保育士が付きっきりで指導した経緯がある。保育士にも保育内容に得手不得手があり、新卒者雇用にあつたって「ピアノ苦手」の若者が多く、今後の音楽活動への課題となる可能性が危惧される。新年度へ向け、階名を付けるよう方針転換する。幼児教育と音楽に関する考察の必要性を感じている。

「体操」園長がレッシュ理論の資格を取得し、年長児に関しては、個々人に応じた体操指導を取り入れることができた。集大成として発表会時に圧倒的な成果として披露することができた。「体操」に関してはもっとも科学的に行われており、体操以外の運動にもレッシュ理論を展開し、ボディーバランスの向上体幹主動のボディーコントロールを身に着け生涯にわたる宝物となる事を期待する。

#### 《しつけ教育・人間教育の徹底に関すること》

「什のきまり」は毎日唱和している。人として、して良いこと悪いことを「失敗の中から学ぶ」ことを徹底指導していった。その中でも「挨拶」に関しては100パーセントとは言わないが、徹底してきたと自負している。何よりも職員も保護者も心一つに「挨拶」を意識してきた成果である。保護者には何一つお願いしなかったにもかかわらず、である。法人の思いをそのまま共有してくださる保護者がありがたい。

#### 《食育活動を通じた体験学習に関すること》

第二保育園・第一保育園にて行っている野菜の苗床作りから収穫・食するまでを体験し、食べ物と体の密接な関係を実体験を通して学んでいくことで食に関心を持たせるという意味では大成功であった。野菜を作ることは、実際大変な労力が必要であり、第二保育園撤退とともに方向性を見直して無理のない範囲での野菜栽培へと方向転換の予定である。

#### 《お年寄りとの交流に関して》

デイサービスからの日々の園訪問が無くなってしまい、発表会終了後の施設訪問と3歳未満児さんが「みんなのお家」訪問をした程度であった。園行事の際には、ご招待し、喜んでいただいた。

### 職員育成

#### 《職員育成》

- ① 八田哲夫氏による園内研修を初任者・中堅・リーダーと分けて保育時間中に実施できた。少人数による研修であったが、成果としての検証はできていない。PDのみであり、CAにつなげる必要がある。(反省点) 様々な研修があるがPDCまでおこなったとしてもAに至っていない原因は何かの検証とともにすでに出来上がっている28年度研修計画においてはPDCAサイクルが回るようにしていく必要がある。
- ② 法人として動きが活発化した年度であり、理事長・園長が留守にすることが多くなった。その留守を主任保育士を中心として、スムーズに運営していくという主任保育士にとっては、重大な使命を帯びた1年となった。しかしこの1年での主任保育士の成長は素晴らしく、職員からの信頼も大きくなり、安心して留守を任せられるようになったことは法人にとって大きな成果であった。

### 安全・安心な職場環境

定時定刻出勤退勤に関する意識は定着し、よほどの事情が無い限り、保育園は19時15分までには100パーセント退勤できるようになった。学童クラブに関してはもう一息である。法人全職員の意識改革がなされるよう次年度は改善する。それぞれが持つ仕事量を時間内にどのようにしたら修了できるか日単位・週単位・月単位で考えることができるように皆で協力して作り上げていきたい。

28年度は「休憩時間」取得の徹底が目標である。

## 補助事業

- ① 延長保育事業 7時～7時半 18時半～19時の30分ずつの延長保育に設定した年度であり、登園は7時半以降が多くなり、降園は18時半前までが多くなった。保護者で調整できることを実感した年でもあった。(延長保育料・人数等 別紙1)
- ② 地域活動事業  
(育児講座・世代間交流事業実績 別紙2)
- ③ 保育士研修事業  
途中で事業打ち切りとの連絡が入り、実施済みの物は園からの支出、予定していたものをキャンセルする事態になった。

## 自主事業

- ② リデー保育(自主事業) 年長児1名実施あり
- ③ 時預かり事業(別紙3)
- ③ 体調不良児保育 日常的に体調不良児に関してはお迎えまでの間、医務室にて預かっている。
- ④ 子育て支援事業(電話相談・子育てサークルフォーリーブス開催)  
子育て相談等は0件  
子育てサークルは月2回ずつ実施してきた。参加者が多いときは、在園児との保育室の調整が難しい時もあった。給食の提供が人気であった。28年度は1室使用可能であり、更に活動範囲を広げたものとして実施予定である。
- ⑤ 園庭開放 連休等利用者は少なかったが、それなりに遊びの場としての役割は担っていたようである。

## 環境整備・安全管理・危機管理・衛生管理

業務管理マニュアルにより実施してきたが、27年度は、足立区からの実地調査・県監査・こども園移行への実地調査と調査が度重なり、その都度、さらなる改善事項を指導していただく機会に恵まれ、即改善へとつなげることができた。特に足立区ルールは厳しく学びの時間となった。

園においてはインフルエンザ・感染性胃腸炎の流行期に、保護者とともに徹底した殺菌滅菌の励行により、近隣施設・学校での流行がありながらも見事に流行を防ぐという成果を出すことができた。

何事も「本気」の強さ・大切さを実感した。更に、いつどこに何を投資するかで法人理念である子供の最善の利益の保障、保護者の育児と仕事の両立支援につながることを学んだ年であった。

## 実費徴収に係る事

延長保育料金・主食代(3歳以上児)・個人使用教材代・保育教材本の実費徴収を行った。

1軒を除いてすべて徴収済みである。

(1軒に関しては、数回に及び請求書をだしているが「がんばります」との返答はあるが、絵本代・教材費等はどうか支払いがあるなどほっとしているとまた、滞納が続くこととなり、対応に関し思案中である。28年度こども園となり保育料を園で徴収することとなり全家庭引き落としにしているが引き落とし出来ないことも危惧されている。)

## 法人としての中長期の事業計画に関して

### 《事業展開に関すること》

こども園への移行・首都圏（足立区）における小規模保育事業所3園の運営と着々と進行中である。  
更なる事業展開を目指していく。

### 《第二保育園移管すること》

少子化による園児数の激減を鑑み、分園と言う選択肢は外し、放課後等デイサービス・児童発達支援での利用をと考え職員を「資格取得」させたが、結果として資格は取得したものの「経験年数」のカウントで、管理者ができないことが分かり、断念した。

第二保育園廃止問ことで町にお返しした。

株式会社「常笑」と一体となった運営を今後も見据えていく。

## 平成27年度 育児講座 事業報告

回数	日時	事業名	使途	予算額	決算額	内容	指導者他
1	5月9日	土 親子自然教室	指導料	25,000	25,000	第二保育園にて草花遊び実施	乙益正隆氏
2	11月11日	水 親子自然教室	指導料	25,000	25,000	アポロ峠にて秋の自然物観察と採取	乙益正隆氏
			レンタカー代	80,000	80,000		
			昼食代	20,000	25,320		
			間食代	5,000	57,756		
3	12月5日	土 親子自然教室	指導料 材料代	25,000 5,000	25,000 4,428	11月に採集した自然物を使ってのリースづくり	乙益正隆氏
5	各クラス随時	クラス懇談会	給食材料費	15,000	32,067	全クラス懇談会后親子給食実施	各クラス担任
			計	200,000	274,571		

## 平成27年度 世代間交流事業 事業計画

回数	日時	内容	使途	予算額	決算額	支出内訳
1	9月12日	土 敬老事業	会場費 プレゼント代 他経費	80,000	60,151	会場費9,200円 色紙代17,820 紅白まんじゅう代19,500 レンタカー代8,640円 その他4,991円
2	12月10日	木 餅つき交流会	もち米代 その他材料 費	30,000	39,963	もち米代22,500円 その他交流用食材費17,463円
3	2月24日 3月2日AM・PM	水 老人施設訪問 3施設	交流時 プレゼント	30,000	42,000	プレゼント用生花代42,000円
4	10月18日	日 運動会ご招待	お弁当代	10,000	23,760	運動会お弁当代23,760円
			計	150,000	165,874	

## 平成27年度 一時保育 実績報告

利用園児数	8 人
延べ日数	231 日
延べ人数	231 人
利用料計	334,500 円

## 平成27年度 延長保育実績報告

	延べ人数朝夕(人)	利用料(円)
4月	291	29,100
5月	210	21,000
6月	256	25,600
7月	254	25,400
8月	222	22,200
9月	221	22,100
10月	233	23,300
11月	226	22,600
12月	292	29,200
1月	207	20,700
2月	208	20,800
3月	268	26,800
延べ人数	2888	
利用料合計		288,800

《平成 27 年度 意見・要望・苦情解決》 2 件

- ① 駐車場の整備をして欲しい（水たまりが多数できていたため）  
対応：排土を入れるつもりで建設業者へ依頼済みであったが、時期を逃したためクラッシャーにて対応した。
- ② 通院のため早めにお迎えに行ったところ、クラス担任が 2 人ともに保育室不在であり、こんな状況がよくあるのだろうかと不安になった  
対応：クラスを子供だけにすることは無いという事を前提に保育を行っており、クラス担当に事情を聴取したところ、事務室にコピーを取りに来ていたとのことであった。2 人担任制であり、すべきことの優先順位・役割分担を考えるよう指導を行う。どうしようもない事情の時は、隣のクラスに不在する理由を伝え窓越しに、または行ったり来たりして確認してもらうよう依頼することとした。

《安全管理・事故について》

別紙のとおりであるが、幸い大きな事故に結びつく案件はなかったが今年度、気になったことは下記のとおり。

- ① 転んで歯・歯茎を傷めるというケースが数件あり、乳歯であってもレントゲン検査をおこなった。そのまま抜歯のケース、固定のケースとあった。いずれも手がつく前に歯を打っていることが気になり、以後も続くようであれば環境構成を見直したいと考える。他は子ども時代に経験していく小さな怪我が多く、大きな事故につながらないためにも小さな怪我で大人も子供も学ぶチャンスとしていきたい。
- ② 操中の打ち身・捻挫も発生した。（跳び箱）補助は必ず必要であること。
- ③ 子供の特性を配慮しながら、動きの細部への目配り気配りについて指導者に再認識してもらった。

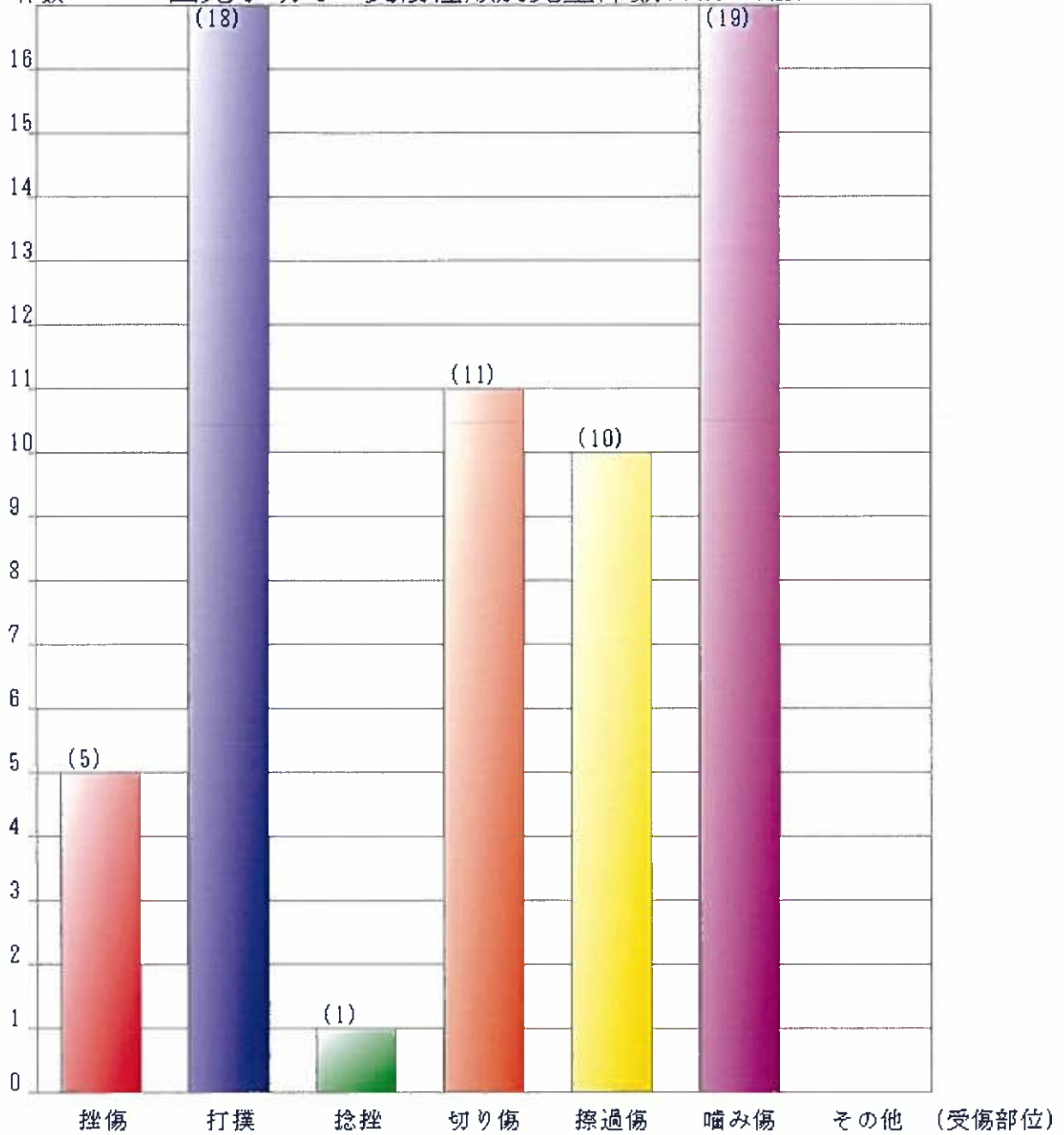
《特別支援体制について》

近年、軽度発達障害と言われる子供たちの処遇に関し、行政を中心に健診の機会が増える・巡回相談・専門家による支援が増える等々、きめ細やかな対応がなされるようになった。

対象とされる子供も様々であり、診断名がある子やグレーな子どもとこちらも様々である。子供たちが将来、社会に出て自立していける力を身に付けていくために一人一人の特性とどのように向き合っていくのか、今なされている支援が有効であるのか否か、見極めて行かなければならないと考える。保護者支援を含め、先回りした支援にならないように気を付けていきたい。今はいわゆる「良い子」が多く、少し手がかかる子への寛容さに欠けた時代になっているような気がしてならない。明らかに支援を必要とする親子もいるので、そちらはきめ細やかな対応をしていく必要があるのは言うまでもない。（私感）

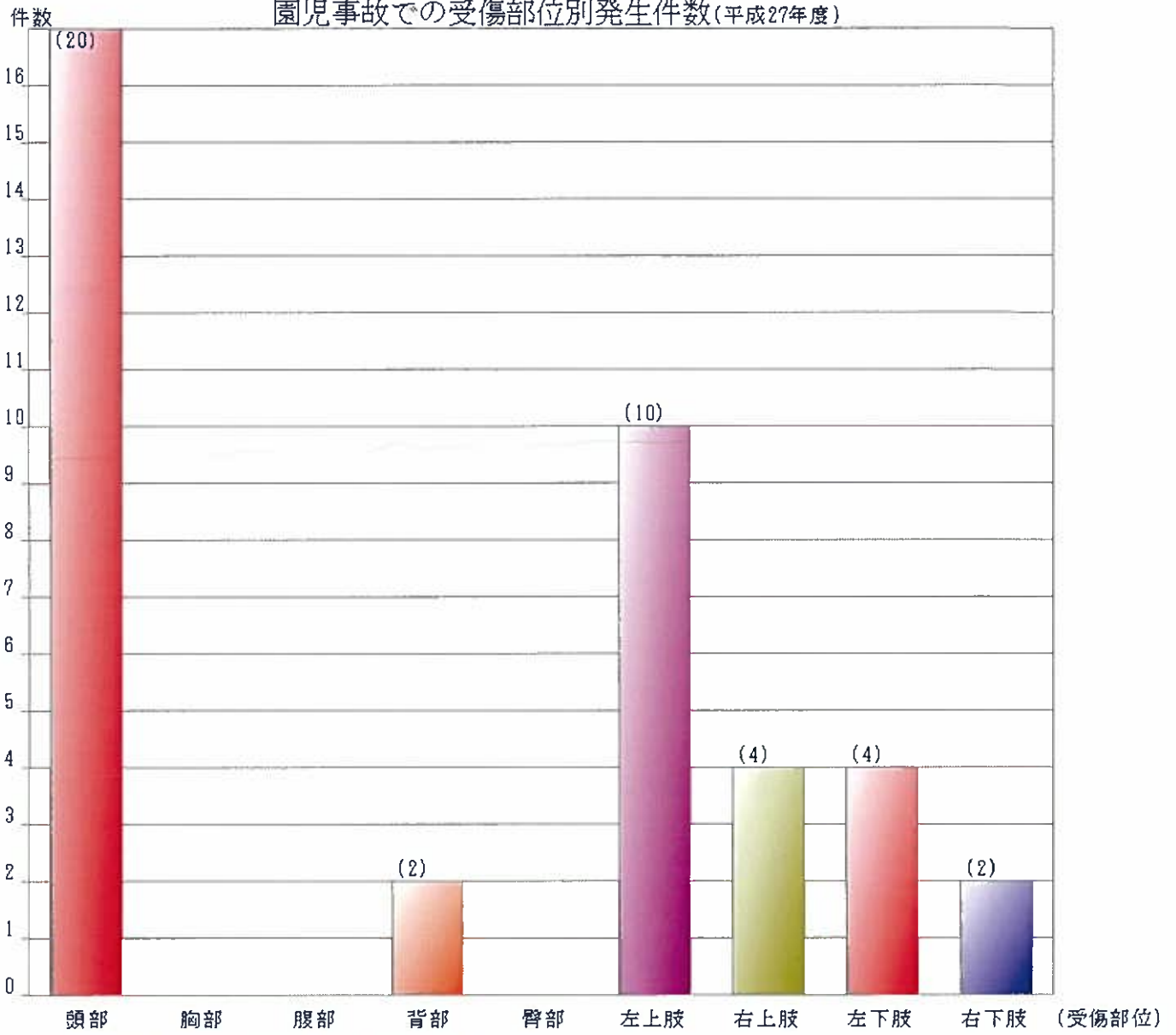


園児事故での受傷種類別発生件数(平成27年度)



園名:幼保連携型認定こども園 慈光こども園

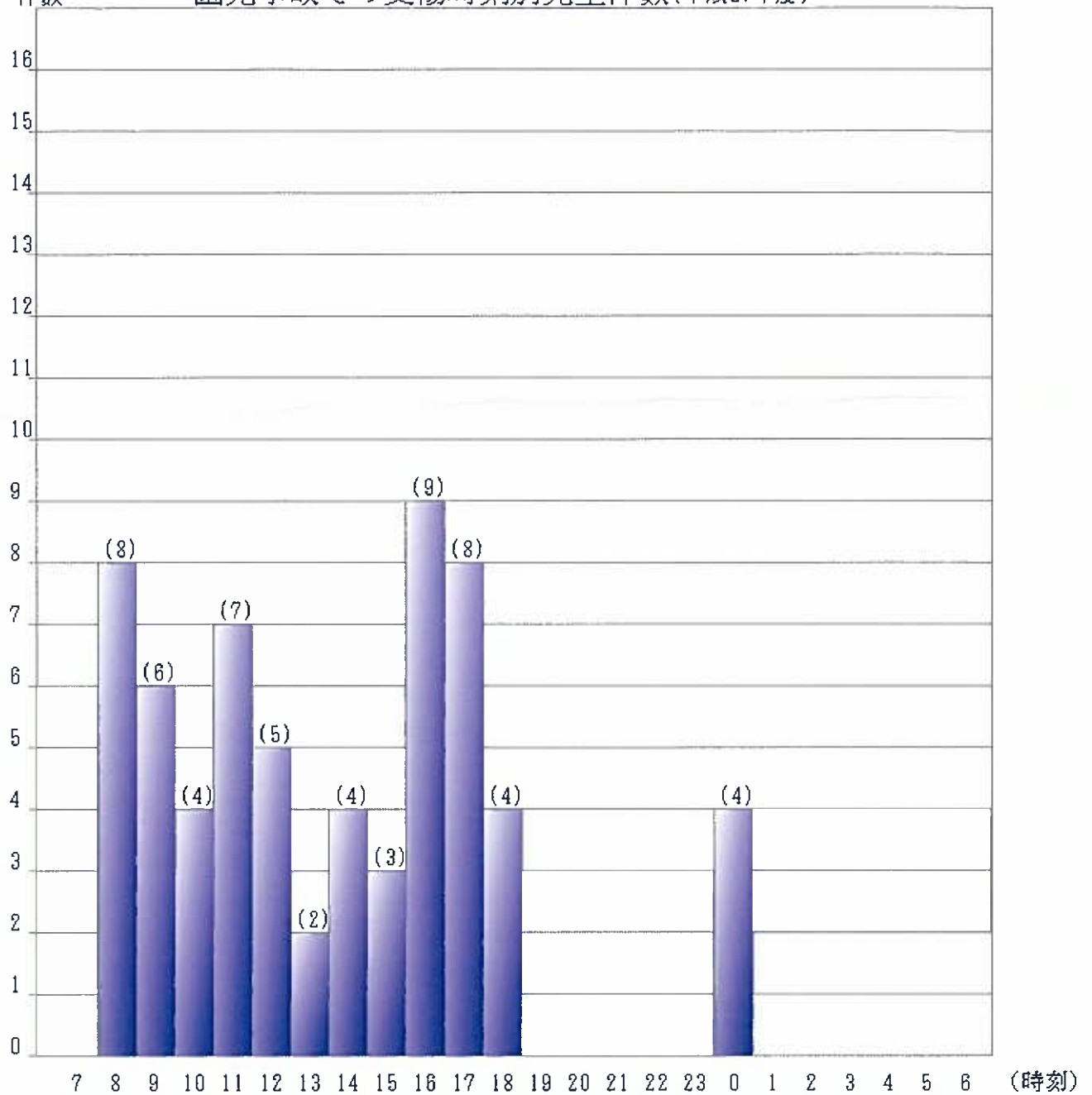
園児事故での受傷部位別発生件数(平成27年度)



園名:幼保連携型認定こども園 慈光こども園

KENSHINKAI all rights reserved, since 2003.03.26

園児事故での受傷時刻別発生件数(平成27年度)



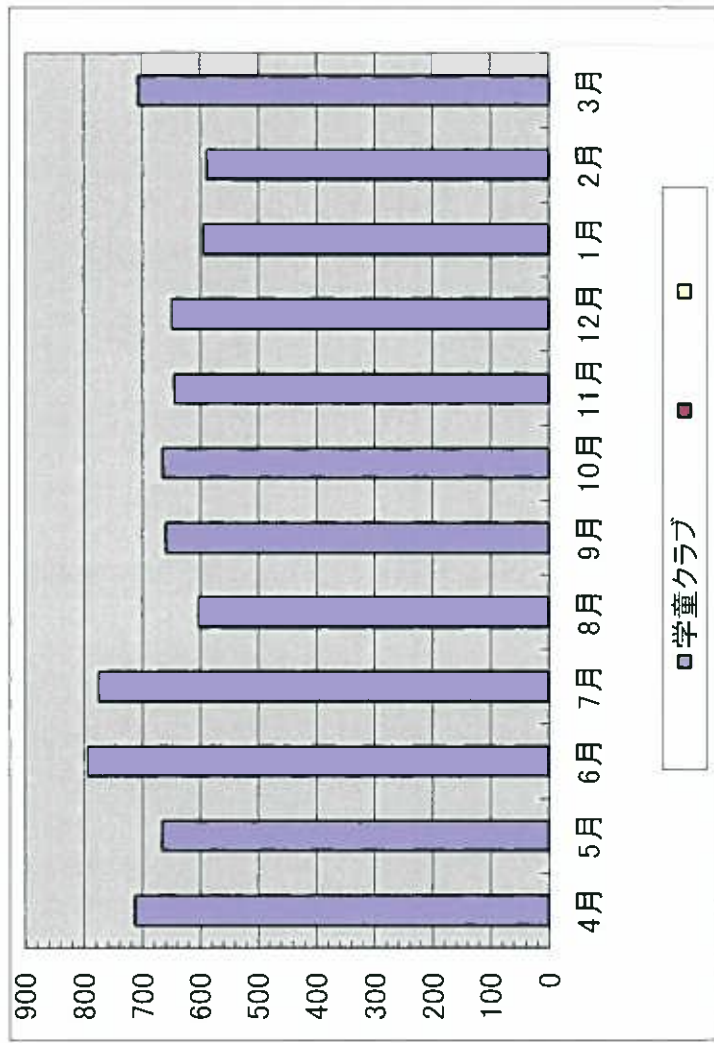
園名:幼保連携型認定こども園 慈光こども園

KENSHINKAI all rights reserved since 2003 03 26



## 平成27年度 慈光学童クラブ利用状況

学童クラブ		(単位:名)												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数		25	23	26	26	26	23	26	23	23	23	24	26	294
登録人数		38	37	37	37	37	37	37	38	38	38	37	37	448
利用人数		713	667	793	775	603	660	665	645	619	594	588	707	8,059



平成27年度 学習支援事業(L S J) 報告書

社会福祉法人 慈光明徳会

1、 総括

事業内容は、昨年度から行ってきた独自教材であるプリントを用いた学校の予習復習を中心とした学習と、漢字検定・数学検定・ことわざ検定を利用した児童の学力の把握と向上を中心に行った。指導員、児童共にプリント学習のスタイルに慣れ、昨年度よりきめ細かい指導を行うことができ、来年度の更なる自学自習スタイルの確立に向け、着実な成果を上げることが出来た。

英語、ソロバンに関しては、昨年同様、望者のみ実施したが、ソロバンに関しては、5年生で準1級の合格者がでるなど、確実に成果を上げることが出来た。また、英語に関しては、週2回の英語学習を確実に実施でき、今後の成果が期待できる。

例年行っている自分の将来の夢について真剣に考え、発表するトリカムプロジェクトも、3年目となり、児童たちの間にも浸透してきた感があり、今年度も敬老会において、予選会で選出された4名が堂々とプレゼンテーションを行い、その他の4年生以上の参加者も、予選会において堂々と自分の夢について発表することが出来た。

その他、年間行事実施内容に記載している様々な行事を、学童クラブと合同で行うことにより、実体験をおとした学習の場の提供も行え、特に12月、3月に行なった日本遺産めぐりは児童や、保護者からも好評であった。災害訓練に関しては、通常の火災等の避難訓練に加え、不審者対策訓練や、上陸塔消防署の協力のもと総合訓練を行い、それらの訓練を通して、職員だけではなく、子供たち自身の安全対策に対する意識を高める努力を行った。

今年度は、北海道をはじめ全国各地から多くの保育園、幼稚園関係者が学習支援事業の取り組みに興味を持ち、見学に来てくださり、この取り組みを賞賛していただき、職員も児童も大きな励みとなった。今後更なる質の向上をめざし、全国のモデルケースとなれよう、従来学校で行う学習の支援以外にも、様々な観点でこれからの世の中で子供に必要なと考えられる能力を育成していく。常に事業内容に改善を加えながら、卒業期の子供たちの育成に取り組んでいきたいと考えている。

2、 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録児童	59	56	56	57	59	56	56	56	56	56	55	55	677
開設日数	25	23	26	26	26	23	25	23	23	23	24	26	294
出席 延べ人数	1,160	960	1,132	1,142	911	934	984	936	958	865	893	1,025	11,900
一般 来館者 平均 出席数	46.4	41.7	43.5	43.9	35.0	40.6	37.8	40.7	41.7	37.6	37.2	39.4	40.5
合計	1,160	960	1,132	1,142	911	934	984	936	958	865	893	1,025	11,900

3、 職種別職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
常勤職員	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
パート アルバイト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48

4、 組織体制等  
・代表(保育園園長兼務) 1名  
・指導員 4名

5、 児童利用時間  
通常 放課後から19時00分  
土曜日・長期休業 8時00分から19時00分

6、 勤務時間  
就業規則及び非常勤職員就業規則に定めるとおり

7、 職員研修実施内容  
OJT

8、 年間行事実施内容  
・調理実習 (4・5・6・9・1・2月)  
・畑作り(6・9・11月)  
・ボランティア活動(4・5・12・3月)  
・科学遊び (7・8・10・12・1月)  
・運動遊び(4・5・6・7・8・10・11・2・3月)  
・制作遊び(5・6・7・2月)  
・歓迎会(4月)

・慈光保育園夏祭り参加  
・七夕飾り(7月)  
・トリカムプレゼンテーション(7月)  
・館外学習(8月)  
・夢講演(9月)  
・地域講座に参加 (11月)  
・日本遺産巡り (12・3月)  
・6年生卒業旅行(3月)  
・ソロバン検定(5・7・9・11・1・3月)  
・算数検定(6・2月)  
・漢字検定(6・10・2月)

9、 災害訓練・衛生管理・職員会議等実施内容  
・避難訓練(毎月学童クラブの子ども達と共に実施)

10、 その他  
特になし

## 平成27年度 学習支援事業利用状況

(単位:名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	23	26	26	26	23	26	23	23	23	24	26	294
登録人数	59	56	56	57	59	56	56	56	56	56	55	55	677
利用人数	1,160	960	1,132	1,142	911	934	984	936	958	865	893	1025	11,900

